

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 102

スターたちの バレエシューズ (2) ロシア編

会期／2025年5月21日(水)～8月24日(日)

(※休館日はwebでご確認ください)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

故・薄井憲二氏(1924-2017)の旧宅から、バレリーナのトゥシューズを写した写真が複数発見されました。裏面にはダンサーの名前と生年などが記されています。コレクター、研究者であったのみならず、ダンサーとして自ら踊られていた薄井氏がとりわけ大切にされていたことがうかがえます。

このトゥシューズの所有者であったダンサーたちの資料を「薄井憲二バレエ・コレクション」の中から選出し、「スターたちのバレエシューズ」展をシリーズでお届けします。第1回「フランス編」に続き、第2回は「ロシア編」。現役スターダンサー、ウラジーミル・マラーホフ(1968-)のサイン入りバレエシューズの現物をはじめ、バレエに不可欠なシューズの魅力をお楽しみください。

セルジュ・リファール (Serge Lifar 1905-1986)

バレエ・リュス最後の男性スター。1923年にバレエ・リュスに参加し、セルゲイ・ディアギレフの寵愛を受けながら着実に力を付け、ブロニスラワ・ニジンスカ、レオニード・マシーン、ジョージ・バランシンらの新作に主演。特にバランシン振付の『牝猫』『ミューズを導くアポロ』『放蕩息子』の主役で高い評価を受けた。

バレエ・リュス解散後は、パリ・オペラ座バレエのエトワール、振付家、芸術監督となって、長く停滞していたオペラ座のバレエを再興させた。振付家としての代表作は『白の組曲』(1943)。1952年にリセット・ダルソンヴァル、リアンヌ・ダイデ、アレクサンドル・カリウジニーの3人とともに来日公演を行い、戦後の海外バレエ団来日の先陣を切っている。



オリガ・レペシンスカヤ (Olga Lepeshinskaya 1916-2008)

ソヴィエトのバレリーナ、教師。モスクワ・バレエ学校を卒業、1933年ボリショイに入団、1963年まで活躍。典型的なソヴィエト・バレリーナで、悦びに満ちた情熱的なダンサー、力強く男性的ともいえる技術と高い跳躍の持ち主。アレクサンドル・ゴルスキー版の『ラ・フィエ・マル・ガルデ』のリーズ(デビュー役)や『ドン・キホーテ』のキトリなどの喜劇的な役柄が賞賛された。しばしば海外公演を行い、引退後は様々な国で教鞭をとった。1970～1980年代には批評も執筆。ソヴィエト連邦人民芸術家(1947)。



ウラジーミル・マラーホフ (Vladimir Malakhov 1968-)

ロシアのダンサー、振付家、芸術監督。モスクワ・バレエ学校で学んだ後、モスクワ国立クラシック・バレエに最年少のソリストとして入団。ヴァルナやモスクワなど、名だたる国際コンクールで受賞。1992年にロシアを離れ、ウィーン国立歌劇場バレエ、カナダ・ナショナル・バレエで踊った後、1995年にアメリカン・バレエ・シアターにプリンシパルとして参加。1999年からは振付も始め、ウィーン国立バレエ団のために『ラ・バヤデール』を改訂演出。2002～2014年、ベルリン国立バレエ団の芸術監督。



主な出展資料

- ◆ PR-296 セルジュ・リファール／来日公演プログラム／日本：日比谷公会堂／1952年10月5～18日
- ◆ PC-P-09 オリガ・レペシンスカヤ／絵葉書／画：アレクサンドル・ゲラシモフ／ロシア／1939年
- ◆ BK-989-bio 書籍／『オリガ・レペシンスカヤ』／ロシア／1983年
- ◆ COS-03-ws ウラジーミル・マラーホフ／バレエシューズ(グリシコ)／2000年頃
- ◆ BK-2808-bio-ws 書籍／『ウラジーミル・マラーホフ：ダンサーとの対話』／ポーランド／2008年



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用